

業績書（教育職員免許法施行規則第 22 条の 6 号関係）

氏 名	白畑知彦	学 位	博士（文学）大阪大学
担当授業科目	英語科教育法 I, II		

1 経歴，学会及び社会における活動等

学歴

1979 年 4 月入学 1983 年 3 月卒業 早稲田大学第一文学部英文学科

1983 年 4 月入学 1985 年 3 月修了 青山学院大学大学院文学研究科英米文学(英語学)専攻
修士課程

1986 年 8 月入学 1988 年 8 月修了 アリゾナ大学大学院英語学部応用言語学専攻修士課
程

学位

2004 年 1 月 博士（文学）（大阪大学文学研究科）

学位論文題目：第二言語習得研究－束縛原理の習得を通して

専攻：言語学（言語習得理論、英語科教育学）

職歴：

自 1988 年 4 月至 1991 年 3 月 常葉学園大学外国語学部 講師

自 1991 年 4 月至 1992 年 3 月 静岡大学教育学部 講師

自 1992 年 4 月至 2003 年 3 月 静岡大学教育学部 助教授

自 2003 年 4 月至 2012 年 3 月 静岡大学教育学部 教授

自 2012 年 4 月 愛知教育大学・静岡大学教育学研究科博士課程共同教科
開発学専攻 教授（現在に至る）

自 2015 年 4 月 静岡大学学術院教育学領域 教授（現在に至る）

学会・社会における活動（2015 年度）

- ・静岡県並びに沼津市中学校英語話し方大会審査委員長
- ・静岡県東部地区高等学校英語スピーチコンテスト審査委員長
- ・中部地区英語教育学会副会長
- ・日本第二言語習得学会研究紀要副編集長
- ・全国英語教育学会紀要査読委員
- ・日本中部言語学会理事

2 著 書

著 書 名	単著・共著の別	発 行 所 名	刊行年月日	備 考
単著				
・『第二言語習得と束縛原理』	単	くろしお出版	2006年7月	307頁
・『英語指導における効果的な誤り訂正—第二言語習得研究の見地から』	単	大修館書店	2015年7月	228頁
・『英語の授業実践—小学校から大学まで』	共編著 (諏訪部真・望月昭彦)	大修館書店	1997年7月	334頁(執筆箇所はpp.113-133)
共著				
・『英語教育用語辞典』	共著(富田祐一・村野井仁・若林茂則)	大修館書店	1999年12月	350頁
・英語習得の「常識・非常識」—第二言語習得理論からの検証	共編著 (若林茂則・須田孝司)	大修館書店	2004年12月	179頁
・『改訂版 英語教育用語辞典』	共著(富田祐一・村野井仁・若林茂則)	大修館書店	2009年5月	377頁
・『詳説 第二言語習得研究』	共著(若林茂則・村野井仁)	研究社	2010年7月	292頁
・ことばの習得	共著(鈴木孝明)	くろしお出版	2012年3月	247頁
分担執筆				

<p>・「II 新しい学習観・学力観に基づく授業の創造：英語（外国語科）」『観点別評価と新しい学習観・学力観』</p> <p>・「第8章 年齢と第二言語習得」『第二言語習得研究に基づく最新の英語教育』</p> <p>・「言語習得理論の観点から」『小学校からの外国語教育—外国語教育改革への提言—』</p> <p>・「普遍文法の視点」『日本語教育学を学ぶ人のために』</p> <p>・「照応表現の習得」『第二言語習得研究入門』</p> <p>・「3章 小中連携を巡る課題 言語習得から見た小中連携」『小学校と中学校を結ぶ—英語教育における小中連携』</p> <p>・「第二言語習得研究からの示唆」『スペシャリストによる英語教育の理論と応用』</p> <p>・「第12章 第二言語習得における否定証拠の効果：主語卓越構文の習得を題材に」『理論言語学の可能性』</p> <p>・「第V部 母語獲得・第二言語習得」『書評から学ぶ理論言語学の最先端（上）』</p> <p>・「第V部 母語獲得・第二言語習得」『書評から学ぶ理論言語学の最先端（下）』</p>	静岡大学 授業研究会(編)	明治図書	1994年2月	pp.184-197.
	小池生夫 監修、 SLA 研究会編	大修館書店	1994年4月	pp.147-166.
	樋口忠彦 他(編)	研究社	1997年3月	pp.120-135.
	青木直子 他(編著)	世界思想社	2001年7月	pp.43-110
	若林茂則 (編著)	新曜社	2005年10月	pp.64-76.
	松川 禮子・大下邦幸(編著)	高陵社書店	2007年3月	pp.63-78.
	小寺 茂明・吉田晴世(編著)	松柏社	2008年4月	pp.157-168.
	畠山雄二 (編著)	開拓社	2012年11月	pp.190-209.
	畠山雄二 (編著)	開拓社	2013年6月	pp.190-209.

・「学習者の誤りに対する明示的修正フィードバックの効果」『日本の英語教育は、今』	畠山雄二 (編著)	開拓社	2013年6月	
	長谷川信子 (編著)	開拓社	2015年3月	

3 学術論文等 (2001年以降の主要な論文のみ)

学術論文等の名称	単独・共同の別	発表雑誌等名	発行年月日	備考
・ Critical Period Hypothesis and Syntactic Comprehension in Second Language.	単著	『静岡大学教育学部研究報告 人文・社会学篇』 Vol. 51	2001年3月	pp.163-177
・ Overregularization in Second Language Acquisition.	単著	『静岡大学教育学部研究報告 教科教育学篇』 Vol. 32	2001年3月	pp.209-223
・ The Acquisition of subject-orientation and long distance binding in <i>zibun</i> by Japanese L1 children.	共著 (石垣順子)	<i>Ars Linguistica</i> , Vol.8 中部言語学会紀要	2001年7月	pp.41-59
・ 研究開発学校で英語に接した児童のその後の英語能力	単著	『静岡大学教育学部研究報告 教科教育学篇』 Vol. 33	2002年3月	pp.195-215
・ The acquisition of Japanese binding form, <i>zibun</i> by English-speaking children.	単著	<i>Second Language</i> , Vol. 1 日本第二言語習得学会	2002年5月	pp.62-96
・ The acquisition of a	単著	In S. Wakabayashi (Ed.), <i>Generative</i>	2003年1月	pp.109-142

<p>second language C-system by Japanese learners of English.</p>	<p>単著</p>	<p>Approaches to the Acquisition of English by Native Speakers of Japanese. Amsterdam: Mouton de Gruyter</p>	<p>2003年11 月</p>	<p>pp.120-122 pp.97-108</p>
<p>・第二言語習得研究成果 からの児童英語教育への 示唆</p>	<p>単著</p>	<p>『子どもに英語 おしえたい』 アルク</p>	<p>2004年3月</p>	<p>pp.3-24</p>
<p>・第二言語としての日本 語の文法習得研究-束縛 表現「自分」の習得を題 材に臨界期仮説を考える -</p>	<p>単著</p>	<p>『応用言語学研 究』明海大学大学 院応用言語学研 究科紀要、No.6 <i>Second Language,</i> Vol. 3</p>	<p>2004年5月</p>	<p>pp.29-50</p>
<p>・言語習得の臨界期につ いて</p>	<p>共著（久野美 津子）</p>	<p>日本第二言語習 得学会 <i>Second Language,</i> Vol.4</p>	<p>2005年5月</p>	<p>pp.18-21</p>
<p>・L2 児童による日本語名 詞句構造内での「ノ」の 習得</p>	<p>単著</p>	<p>日本第二言語習 得学会</p>	<p>2005年7月</p>	<p>pp.30-34</p>
<p>・英語の学習開始時期と 小学校英語教育</p>	<p>単著</p>	<p>『教育研究』 8 月号 筑波大学附 属小学校社団法人初等教育研究会 『ELEC Bulletin』</p>	<p>2005年9月</p>	<p>pp.141-156</p>

<p>・英語教師のための第二言語習得研究入門</p>	共著（萩山知世）	No.112 英語教育協議会	2007年3月	pp.185-211
<p>・ Interpretation of English pronouns and reflexives by Japanese learners.</p>	共著（久野美津子）	『静岡大学教育学部研究紀要人文科学篇』 Vol. 57	2007年3月	pp. 9-19
<p>・ Japanese EFL students' knowledge of English verb lexicon.</p>	単著	『静岡大学教育学部研究紀要教科教育学篇』 Vol. 38	2007年3月	pp. 58-65
<p>・ 中国人児童による「てある」構造習得に関する予備的調査</p>	単著	『静岡大学国際交流センター紀要』第1号	2007年10月	pp.143-158
<p>・ 外国語の文法習得のメカニズムとは何か</p>	単著	『言語』 11月号 大修館書店	2007年10月	pp.25-38
<p>・ 中国人児童による日本語格助詞の発達過程の記述 —来日後4ヶ月の記録—</p>	共著（久野美津子）	『静岡大学教育学部研究紀要人文科学篇』 Vol. 58	2008年3月	pp.1-24
<p>・ 中国人児童による「てある」構造習得に関する予備的調査 その2—「状態」を表す「ている」構造との比較—</p>	共著（富田祐一・椎名紀久子・高橋美由紀）	『静岡大学国際交流センター紀要』第2号	2008年3月	pp.60-65
<p>・ 特区における英語教育の実態調査の結果の分析</p>	単著	『日本児童英語教育学会研究紀要』 第27号	2008年9月	pp.21-35

・生成文法理論の外国語教育へ応用を考える		『言語』11月号 大修館書店	2008年10月	pp.173-180
・日本語母語話者におけるとりたて詞「だけ」の習得	共著（久野美津子） 単著	Ars Linguistica, Vol.15 日本中部言語学会	2008年12月	pp.1-13
・小学生の英語能力調査	単著	『中部地区英語教育学会紀要』 Vol.	2009年3月	pp.11-13
・言語習得研究成果の外国語教育への応用を探る	単著	Southern Review, No. 24 沖縄外国文学会	2009年12月	pp.18-22
・英語教育における研究調査の基礎・基本	単著	『英語教育』5月号 大修館書店	2009年4月	pp.28-45
・第二言語習得研究に言語理論(生成文法理論)を活かすと見えてくること	単著	『ことばの科学 研究』Vol. 11 ことばの科学会	2010年7月	pp. 27-34
・ Interpretation of <i>dake</i> (=only) by Japanese children	共著（久野美津子）	Ars Linguistica Vol. 17	2010年11月	pp. 53-64
共同大学院博士課程設置に関する意識調査－大学院生と高校教員への調査結果より－	共著（新保淳・紅林秀治 他3名） 単著	『静岡大学教育学部実践センター紀要』Vol. 19 Ars Linguistica,	2011年3月	pp.89-110

<ul style="list-style-type: none"> • Syntactic comprehension of Japanese structures by Chinese learners 		Vol. 8	2011 年 12 月	pp.1129-1143
<ul style="list-style-type: none"> • <i>Zibun</i> and locality in L2 Japanese 	共著 (N. Yoshimura, M. Nakayama, Sawasaki, K. & Y. Terao 共著	<i>Journal of Japanese Linguistics</i> , Vol. 28	2012 年 3 月	pp.1-8
<ul style="list-style-type: none"> • Effects of explicit instruction on the semantic role of English sentence subject: A case of Japanese EFL learners 	(Shibata M. & Taferner, H. R.)	In <i>2013 HICE Proceedings</i>	2013 年 1 月	pp.103-112 pp.311-316
<ul style="list-style-type: none"> • 明示的文法説明の有効性と限界－物質名詞の単数形・複数形の習得を例にとって－ 	共著 (横田秀樹)	『中部地区英語教育学会紀要』 Vol. 42	2013 年 3 月	
<ul style="list-style-type: none"> • 外国語教育学における教科開発学研究とは 	共著 (占部昌蔵)	『教科開発学論集』 Vol. 1	2013 年 3 月	pp.103-111
<ul style="list-style-type: none"> • Persistency of morpheme acquisition sequence in contrast to oral metalinguistic explanations and direct written correct feedback for Japanese EFL learners. 	共著 (Shibata, M. & Taferner, R. H.)	Proceedings of ALAK (Applied Linguistics Association Korea)	2013 年 10 月	pp.163-171 pp.81-87
	共著 (占部昌蔵)			pp.1-21

<ul style="list-style-type: none"> ・外国語教育学における教科開発学研究とは」 	単著	『教科開発学論集』 Vol. 1	2013年3月	
<ul style="list-style-type: none"> ・否定証拠を中心とした明示的英文法指導の効果検証－予備的調査－ 	共著（占部昌三）	『教科開発学論集』 Vol. 1	2013年3月	pp. 49-53
<ul style="list-style-type: none"> ・現在完了形の誤り分析－過剰使用と過少使用 	共著（澤崎宏一・寺尾康）	『中部地区英語教育学会』 Vol. 43	2014年3月	pp.57-64
<ul style="list-style-type: none"> ・英語学習者の談話における三人称代名詞の使用－固有名詞との比較をとおして（予備的研究）－ 	共著（Fujimori, A. & Yoshimura, N.）	『ことばと文化』 Vol. 17 静岡県立大学	2014年3月	
<ul style="list-style-type: none"> ・Acquisition of prosodic focus marking by Japanese ESL learners 	共著（近藤隆子）	IECE Technical Report TL, Vol.20	2014年8月	pp. 93-98
<ul style="list-style-type: none"> ・自動詞・他動詞構造の混同軽減のための明示的指導に関する－考察－明示的指導の提示方法に焦点を当てて－ 	単著	『中部地区英語教育学会紀要』 Vol. 44	2015年1月	pp.181-188
<ul style="list-style-type: none"> ・これからの教科教育のあり方を考える－教科開発学の視点から－ 	共著（新保淳・北山敦康）	『日本教科教育学会誌』第37巻第4号 日本教科教育学会	2015年3月	pp. 57-69
<ul style="list-style-type: none"> ・本共同教科開発学専攻の今後の方向性－国内外の Doctor of Education (Ed.D.)の実態調査に基 		『教科開発学論集』 Vol. 3	2015年3月	

づいてー	共著 (N. Yoshimura & A. Fujimori)	『静岡県立大学 国際関係学部紀要』 Vol.13, no.2	2015年3月	pp.93-108
・ Focus and Prosody in Second Language Acquisition	共著 (Yoshimura, N., Nakayama, M., & Sawasaki, K.)	Studies in English Language and Literature, Vol. 35	2015年3月	pp.460-475
・ Japanese EFL learners' knowledge of coreference in tensed and infinitive constructions	共著 (T. Kondo)	Taiwan ARELE, Vol.26	2015年3月	pp.98-109
・ The effect of explicit instruction on transitive and intransitive verb structures in L2 English classrooms	共著 (N. Yoshimura & S. Sawasaki)	全国英語教育学会紀要	2015年3月	pp. 53-60
・ Locality and disjointness in adult second language acquisition.	単著	The Proceedings of GALA 2013	2015年10月	
・ 子どもの第二言語習得と成人の第二言語習得」	共著 (Kondo, T., Otaki, A. & Suda, K.)	『日本語学 臨時増刊号』 明治書院	2015年11月	
・ Occurrences of unaccusative verbs in English textbooks and their acquisition		『中部地区英語教育学会紀要』 Vol. 45	2016年2月	

4 学会発表等 (過去数年分のみ)

発表課題の名称	単独・共同の別	発表学会等の名称	発表年月日	備考
・ Little effect of classroom instruction on the accuracy of verb morphemes by Japanese EFL learners	共同	EuroSLA2013	2013年8月28日	University of Amsterdam, Holland
・ Persistency of morpheme acquisition sequence in contrast to oral metalinguistic explanations and direct written correct feedback for Japanese EFL learners	共同	Applied Linguistics Association Korea	2013年10月5日	Busan University of Foreign Language, Korea
・ 自動詞・他動詞構造の混同軽減のための明示的指導に関する一考察 —グループ別結果に焦点を当てて—	共同	中部地区英語教育学会	2014年6月22日	山梨大学
・ The Effects of Explicit Instruction on Transitive and Intransitive Verb Structures in L2 English Classrooms	共同	全国英語教育学会	2014年8月10日	徳島大学
・ Explicit Instruction on English Verb Structures in L2 Classrooms	共同	The Sixth CLaSIC	2014年12月4日	Singapore National University
・ Japanese Learners' Usage of <i>be</i> + <i>-en</i> Form with English Unaccusative Verbs	共同	第15回日本第二言語習得学会(J-SLA)	2015年6月7日	広島大学
・ Frequency Effects and the Acquisition of English	共同	中部地区英語教育学会	2015年6月28日	和歌山大

Unaccusative Verbs in Foreign Language Classrooms			日	学
• Is <i>In-</i> an Intractable Affix?: The Prefix Difficulty Order Revisited	共同	中部地区英語教育 学会	2015年6月28 日	和歌山大学
• Animate and inanimate contrast in the acquisition of unaccusative verbs	共同	第17回言語科学会 国際大会	2015年7月18 日	別府国際 コンベン ションセ ンター
• <i>Mis-</i> is Not So Mistaken: Prefix Difficulty Order among Japanese EFL Learners	共同	全国英語教育学会 熊本大会	2015年8月23 日	熊本学園 大学
• Aiming at the establishment of a new Japanese-style Doctor of Education Program: Attempts of Aichi University of Education and Shizuoka University	共同	The 10th East Asia International Symposium on Teacher Education	2015年10月 31日	名古屋国 際コンベ ンション センター
• The effect of explicit instruction and error correction on learners' grammatical accuracy	共同	II International Conference on Teaching Grammar,	2016年1月27 日	University of Valencia, Spain

以上